

科目名称	介護予防学
授業コード	AD356
英語名称	Preventive care
学期	2024年度後期
単位	1.0
担当教員	渡辺 長, 新永 拓也
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	近年の人口の高齢化とそれに伴う社会保障費の増大によって、介護予防の重要性が高まっている。介護予防の在り方については地域住民や他職種間で情報共有しながら、あるべき支援を共に考えていく姿勢が欠かせない。そのため講義では理学療法士の活動に限らず、他職種が果たす役割も交えながら、豊富な実務経験を持つ教員と実際の臨床現場で働く理学療法士が介護予防事例の介入と効果について講義する。また進め方として学生各々が自らの考えを発展させ応用できるようにアクティブラーニングの要素を積極的に取り入れていく。
科目に関連する実務経験と授業への活用	本科目は国内外の総合病院や研究機関で介護予防分野に関するアプローチに従事してきた教員（理学療法士）が、その経験を活かして、地域における介護予防の重要性から効果まで様々な具体的実例を交えながら説明する。また地域包括ケアを中心とした他職種連携を念頭に今後求められる理学療法士像について講義する。 ・渡辺長：理学療法士（総合病院勤務経験） ・新永拓也：理学療法士（総合病院勤務経験）
到達目標	ディプロマポリシーにある「豊かな教養と倫理観」を獲得するため以下の到達目標を設定した。  【科目特有の知識・技術についての到達目標】 ・「高齢化」にまつわる社会や経済の変化について理解する ・世界における日本の社会保障の立ち位置を理解する ・地域における高齢者の健康/QOLについて理解する ・介護予防に果たす他職種及び地域住民の役割を理解する  【汎用能力としての学士力についての到達目標】 ・実際の介護予防場面において本講義の知識を生かせるようになる
計画・内容	1. 介護予防の概要について：渡辺（理学療法士） 疫学の歴史と介護予防(1次～3次予防について) 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる  2. 高齢者地域福祉の実際：渡辺（理学療法士） 統計からみる高齢化 / 社会への影響 / 地域共生ケアの重要性 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる  3. 外国人医療従事者との協働 / 多文化理解：渡辺（理学療法士） 社会的背景 / 外国人労働者の光と闇 / 異文化コミュニケーション 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる  4. 諸外国における社会保障：渡辺（理学療法士） 世界からみた日本の社会保障の特徴 / 社会保障国際比較 / アジアの社会保障 予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる  5. 健康格差を生み出す要因：新永（理学療法士）

計画・内容	<p>健康格差の正体 / 環境因子と個人因子 / 貧富の差  予習：該当項目について自己学習をする 復習：講義内容をまとめる</p> <p>6. 介護予防プログラム（主にロコモティブシンドローム・サルコペニア）  一般的な介護予防のためのプログラム：新永（理学療法士）  予習：関連する講義ノートを読んでおくこと  復習：本日の講義ノートの再読</p> <p>7. 認知症予防プログラム：新永（理学療法士）  有酸素運動やダブルタスクが認知症の進行の抑制に及ぼす効果と理由  予習：関連する講義ノートを読んでおくこと  復習：講義ノートの再読</p> <p>8. 要介護に至る要因とその因果関係：新永（理学療法士）  介護予防に関する研究を紹介し、研究者の視点を学ぶ  予習：関連する講義ノートを読んでおくこと  復習：講義ノートの再読</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ毎にオムニバス形式のオンライン講義を実施する。</li> <li>・知識確認のためレポート課題を課す。</li> <li>・非対面の中でも可能な限りアクティブラーニングを取り入れ、演習も行う。</li> </ul>
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防に関する理解を深めるため、実際の事例を基に学生の意見やアイデアを取り入れながらディスカッションを進めていく。</li> <li>・多くの臨床現場で活躍される先生方が担当されるため、学生達の興味を引くテーマで講義を行い、学生からの質問や疑問を反映させながら進めていく。</li> </ul>
授業時間外の学修	復習として授業内容や配布資料を用いて自分の講義ノートを整理する（各回1時間）。
教科書・参考書	<p>特に指定せず基本的に毎回資料を配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省ホームページ上（<a href="http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/tp0501-1.html">http://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/tp0501-1.html</a>）の介護予防マニュアル（改訂版）はできるだけダウンロードした上で目を通すこと。</li> </ul> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細田多穂・柳澤 健 編集; 理学療法ハンドブック 協同医書出版（22000+税）</li> </ul>
成績評価方法と基準	提出課題(40%)・レポート課題(60%)より判定する。
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートは返却し、授業内で解説を行う。</li> <li>・学生からのコメントペーパーの内容を基に授業への反映や資料配布を行う。</li> </ul>
オフィスアワー	CampusSquareを参照。
留意事項	本科目は、実際の様々な臨床現場で活躍される理学療法士の先生方が担当する実践的科目であるため積極的な姿勢で臨み、興味関心が持てる領域を見つけること。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <p>オンライン（ZOOM）にて実施する。一方向にならないよう適宜声掛けや対話、グループセッションを利用したインタラクションを積極的に実施する。</p> <p>成績評価方法と基準</p> <p>対面と同様、提出課題(40%)・レポート課題(60%)より判定する。</p>